

## 6.9 定積分の性質

定積分の定義を復習する.

定義 実数  $a$  と  $b$  について  $a \leq b$  で、関数  $f$  の定義域は区間  $[a, b]$  を含むとする. 正の各自然数  $n$  に対して,

$$a = x_0 < x_1 < x_2 < \cdots < x_{n-1} < x_n = b$$

である実数  $x_0, x_1, x_2, x_3, \dots, x_{n-1}, x_n$  及び  $\xi_1, \xi_2, \xi_3, \dots, \xi_n$  をとり,

$$\delta_n = \max\{x_1 - x_0, x_2 - x_1, \dots, x_n - x_{n-1}\},$$

$$S_n = \sum_{k=1}^n f(\xi_k)(x_k - x_{k-1})$$

とおく.  $S_n$  を表す式を  $f$  のリーマン和という.  $\lim_{n \rightarrow \infty} \delta_n = 0$  であるどのようなリーマン和  $S_n$  も  $n \rightarrow \infty$  のとき収束して極限值  $\lim_{n \rightarrow \infty} S_n$  が関数  $f$  及び実数  $a, b$  だけから唯一つに決まるならば, 関数  $f$  は  $a$  から  $b$  まで (定) 積分可能であるといい,  $\int_a^b f(x) dx$  を  $a$  から  $b$  までの

$f$  の定積分といい,  $\int_a^b f(x) dx$  と書き表す:  $\int_a^b f(x) dx = \lim_{n \rightarrow \infty} S_n$ .

定義 実数  $a$  と  $b$  について  $a \leq b$  で, 関数  $f$  の定義域は区間  $[a, b]$  を含むとする. 正の各自然数  $n$  に対して,

$$a = x_0 \leq \xi_1 \leq x_1 \leq \xi_2 \leq x_2 \leq \xi_3 \leq x_3 \leq \cdots \leq x_{n-1} \leq \xi_n \leq x_n = b$$

である実数  $x_0, x_1, x_2, x_3, \dots, x_{n-1}, x_n$  及び  $\xi_1, \xi_2, \xi_3, \dots, \xi_n$  をとり,

$$\delta_n = \max\{\xi_1 - x_0, x_1 - \xi_1, \xi_2 - x_1, x_2 - \xi_2, \dots, x_{n-1} - \xi_{n-1}, \xi_n - x_{n-1}, x_n - \xi_n\},$$

$$S_n = \sum_{k=1}^n f(\xi_k)(x_k - x_{k-1})$$

とおく.  $S_n$  を表す式を  $f$  のリーマン和という.  $\lim_{n \rightarrow \infty} \delta_n = 0$  であるどのようなリーマン和  $S_n$  も  $n \rightarrow \infty$  のとき収束して極限值  $\lim_{n \rightarrow \infty} S_n$  が関数  $f$  及び実数  $a, b$  だけから唯一つに決まるならば, 関数  $f$  は  $a$  から  $b$  まで (定) 積分可能であるといい,  $\int_a^b f(x) dx$  を  $a$  から  $b$  までの

$f$  の定積分といい,  $\int_a^b f(x) dx$  と書き表す:  $\int_a^b f(x) dx = \lim_{n \rightarrow \infty} S_n$ .

定義 実数  $a$  と  $b$  について  $a \leq b$  で、関数  $f$  の定義域は区間  $[a, b]$  を含むとする。正の各自然数  $n$  に対して、

$$a = x_0 \leq \xi_1 \leq x_1 \leq \xi_2 \leq x_2 \leq \xi_3 \leq x_3 \leq \cdots \leq x_{n-1} \leq \xi_n \leq x_n = b$$

である実数  $x_0, x_1, x_2, x_3, \dots, x_{n-1}, x_n$  及び  $\xi_1, \xi_2, \xi_3, \dots, \xi_n$  をとり、

$$\delta_n = \max\{x_1 - x_0, x_2 - x_1, x_3 - x_2, \dots, x_n - x_{n-1}\},$$

$$S_n = \sum_{k=1}^n \{f(\xi_k)(x_k - x_{k-1})\}$$

とおく。  $S_n$  を表す式を  $f$  のリーマン和という。  $\lim_{n \rightarrow \infty} \delta_n =$  であるどのようなリーマン和  $S_n$  も  $n \rightarrow \infty$  のとき収束して極限值  $\lim_{n \rightarrow \infty} S_n$  が関数  $f$  及び実数  $a, b$  だけから唯一つに決まるならば、関数  $f$  は  $a$  から  $b$  まで (定) 積分可能であるといい、  $\int_a^b f(x) dx$  を  $a$  から  $b$  ま

での  $f$  の定積分といい、  $\int_a^b f(x) dx$  と書き表す：  $\int_a^b f(x) dx =$  .

定義 実数  $a$  と  $b$  について  $a \leq b$  で、関数  $f$  の定義域は区間  $[a, b]$  を含むとする。正の各自然数  $n$  に対して、

$$a = x_0 \leq \xi_1 \leq x_1 \leq \xi_2 \leq x_2 \leq \xi_3 \leq x_3 \leq \cdots \leq x_{n-1} \leq \xi_n \leq x_n = b$$

である実数  $x_0, x_1, x_2, x_3, \dots, x_{n-1}, x_n$  及び  $\xi_1, \xi_2, \xi_3, \dots, \xi_n$  をとり、

$$\delta_n = \max\{x_1 - x_0, x_2 - x_1, x_3 - x_2, \dots, x_n - x_{n-1}\},$$

$$S_n = \sum_{k=1}^n \{f(\xi_k)(x_k - x_{k-1})\}$$

とおく。 $S_n$  を表す式を  $f$  のリーマン和という。 $\lim_{n \rightarrow \infty} \delta_n = 0$  であるどのようなリーマン和  $S_n$  も  $n \rightarrow \infty$  のとき収束して極限值  $\lim_{n \rightarrow \infty} S_n$  が関数  $f$  及び実数  $a, b$  だけから唯一つに決まるならば、関数  $f$  は  $a$  から  $b$  まで (定) 積分可能であるといい、 $f$  のリーマン和  $S_n$  の極限值  $\lim_{n \rightarrow \infty} S_n$  を  $a$  から  $b$  までの  $f$  の定積分といい、 $\int_a^b f(x) dx$  と書き表す： $\int_a^b f(x) dx = \lim_{n \rightarrow \infty} S_n$  .

関数  $f$  が  $a$  から  $b$  まで積分可能であるとき, 関数  $f$  は  $b$  から  $a$  まで積分可能であるといい,  $f$  の  $b$  から  $a$  までの定積分  $\int_b^a f(x) dx$  を次のように定義する:  $\int_b^a f(x) dx = -\int_a^b f(x) dx$  .

**定理**  $k$  は定数とする. 関数  $f(x)$  と  $g(x)$  とが実数  $a$  から実数  $b$  まで積分可能であるとき, 関数  $kf(x)$ ,  $f(x) + g(x)$ ,  $f(x) - g(x)$  も  $a$  から  $b$  まで積分可能であり,

$$\int_a^b k f(x) dx = k \int_a^b f(x) dx ,$$
$$\int_a^b \{f(x) \pm g(x)\} dx = \int_a^b f(x) dx \pm \int_a^b g(x) dx \quad (\text{複号同順}) .$$

**定理**  $k$  は定数とする. 関数  $f(x)$  と  $g(x)$  とが実数  $a$  から実数  $b$  まで積分可能であるとき, 関数  $kf(x)$ ,  $f(x) + g(x)$ ,  $f(x) - g(x)$  も  $a$  から  $b$  まで積分可能であり,

$$\int_a^b k f(x) dx = k \int_a^b f(x) dx ,$$
$$\int_a^b \{f(x) \pm g(x)\} dx = \int_a^b f(x) dx \pm \int_a^b g(x) dx \quad (\text{複号同順}) .$$

実数  $a, b$  について  $a \leq b$  で, 関数  $f(x)$  と  $g(x)$  とは  $a$  から  $b$  まで積分可能であるとする. 次のことを示す: 関数  $f(x) + g(x)$  も  $a$  から  $b$  まで積分可能であり,

$$\int_a^b \{f(x) + g(x)\} dx = \int_a^b f(x) dx + \int_a^b g(x) dx .$$

正の各自然数  $n$  に対して,

$$a = x_0 \leq \xi_1 \leq x_1 \leq \xi_2 \leq x_2 \leq \xi_3 \leq x_3 \leq \cdots \leq x_{n-1} \leq \xi_n \leq x_n = b$$

である実数  $x_0, x_1, x_2, x_3, \dots, x_{n-1}, x_n$  及び  $\xi_1, \xi_2, \xi_3, \dots, \xi_n$  をとり,

$$\delta_n = \max\{x_1 - x_0, x_2 - x_1, x_3 - x_2, \dots, x_n - x_{n-1}\},$$

$$S_n = \sum_{k=1}^n [\{f(\xi_k) + g(\xi_k)\}(x_k - x_{k-1})],$$

$$T_n = \sum_{k=1}^n \{f(\xi_k)(x_k - x_{k-1})\}, \quad U_n = \sum_{k=1}^n \{g(\xi_k)(x_k - x_{k-1})\},$$

とおく.

正の各自然数  $n$  に対して,

$$a = x_0 \leq \xi_1 \leq x_1 \leq \xi_2 \leq x_2 \leq \xi_3 \leq x_3 \leq \cdots \leq x_{n-1} \leq \xi_n \leq x_n = b$$

である実数  $x_0, x_1, x_2, x_3, \dots, x_{n-1}, x_n$  及び  $\xi_1, \xi_2, \xi_3, \dots, \xi_n$  をとり,

$$\delta_n = \max\{x_1 - x_0, x_2 - x_1, x_3 - x_2, \dots, x_n - x_{n-1}\},$$

$$S_n = \sum_{k=1}^n [\{f(\xi_k) + g(\xi_k)\}(x_k - x_{k-1})],$$

$$T_n = \sum_{k=1}^n \{f(\xi_k)(x_k - x_{k-1})\}, \quad U_n = \sum_{k=1}^n \{g(\xi_k)(x_k - x_{k-1})\},$$

とおく.  $S_n$  は関数  $f(x) + g(x)$  のリーマン和であり,  $T_n$  は関数  $f(x)$  のリーマン和であり,  $U_n$  は関数  $g(x)$  のリーマン和である.

正の各自然数  $n$  に対して,

$$a = x_0 \leq \xi_1 \leq x_1 \leq \xi_2 \leq x_2 \leq \xi_3 \leq x_3 \leq \cdots \leq x_{n-1} \leq \xi_n \leq x_n = b$$

である実数  $x_0, x_1, x_2, x_3, \dots, x_{n-1}, x_n$  及び  $\xi_1, \xi_2, \xi_3, \dots, \xi_n$  をとり,

$$\delta_n = \max\{x_1 - x_0, x_2 - x_1, x_3 - x_2, \dots, x_n - x_{n-1}\},$$

$$S_n = \sum_{k=1}^n [\{f(\xi_k) + g(\xi_k)\}(x_k - x_{k-1})],$$

$$T_n = \sum_{k=1}^n \{f(\xi_k)(x_k - x_{k-1})\}, \quad U_n = \sum_{k=1}^n \{g(\xi_k)(x_k - x_{k-1})\},$$

とおく.  $S_n$  は関数  $f(x) + g(x)$  のリーマン和であり,  $T_n$  は関数  $f(x)$  のリーマン和であり,  $U_n$  は関数  $g(x)$  のリーマン和である.

関数  $f(x) + g(x)$  のリーマン和  $S_n = \sum_{k=1}^n [\{f(\xi_k) + g(\xi_k)\}(x_k - x_{k-1})]$  及び関

数  $f(x)$  のリーマン和  $T_n = \sum_{k=1}^n \{f(\xi_k)(x_k - x_{k-1})\}$  及び関数  $g(x)$  のリーマ

ンと  $U_n = \sum_{k=1}^n \{g(\xi_k)(x_k - x_{k-1})\}$  について,

関数  $f(x) + g(x)$  のリーマン和  $S_n = \sum_{k=1}^n [\{f(\xi_k) + g(\xi_k)\}(x_k - x_{k-1})]$  及び関

数  $f(x)$  のリーマン和  $T_n = \sum_{k=1}^n \{f(\xi_k)(x_k - x_{k-1})\}$  及び関数  $g(x)$  のリーマ

ンと  $U_n = \sum_{k=1}^n \{g(\xi_k)(x_k - x_{k-1})\}$  について,

$$\begin{aligned} S_n &= \sum_{k=1}^n [\{f(\xi_k) + g(\xi_k)\}(x_k - x_{k-1})] \\ &= \sum_{k=1}^n \{f(\xi_k)(x_k - x_{k-1}) + g(\xi_k)(x_k - x_{k-1})\} \\ &= \sum_{k=1}^n \{f(\xi_k)(x_k - x_{k-1})\} + \sum_{k=1}^n \{g(\xi_k)(x_k - x_{k-1})\} \\ &= T_n + U_n . \end{aligned}$$

関数  $f(x) + g(x)$  のリーマン和  $S_n = \sum_{k=1}^n [\{f(\xi_k) + g(\xi_k)\}(x_k - x_{k-1})]$  及び関

数  $f(x)$  のリーマン和  $T_n = \sum_{k=1}^n \{f(\xi_k)(x_k - x_{k-1})\}$  及び関数  $g(x)$  のリーマ

ンと  $U_n = \sum_{k=1}^n \{g(\xi_k)(x_k - x_{k-1})\}$  について,

$$\begin{aligned} S_n &= \sum_{k=1}^n [\{f(\xi_k) + g(\xi_k)\}(x_k - x_{k-1})] \\ &= \sum_{k=1}^n \{f(\xi_k)(x_k - x_{k-1}) + g(\xi_k)(x_k - x_{k-1})\} \\ &= \sum_{k=1}^n \{f(\xi_k)(x_k - x_{k-1})\} + \sum_{k=1}^n \{g(\xi_k)(x_k - x_{k-1})\} \\ &= T_n + U_n . \end{aligned}$$

つまり、関数  $f(x) + g(x)$  のリーマン和  $S_n$  は、関数  $f(x)$  のリーマン和  $T_n$  と関数  $g(x)$  のリーマン和  $U_n$  との和である。

$\lim_{n \rightarrow \infty} \delta_n = 0$  とする.

$S_n$  は関数  $f(x) + g(x)$  のリーマン和なので  $\int_a^b \{f(x) + g(x)\} dx = \lim_{n \rightarrow \infty} S_n$  .

$T_n$  は関数  $f(x)$  のリーマン和なので  $\lim_{n \rightarrow \infty} T_n = \int_a^b f(x) dx$  .

$U_n$  は関数  $g(x)$  のリーマン和なので  $\lim_{n \rightarrow \infty} U_n = \int_a^b g(x) dx$  .

$\lim_{n \rightarrow \infty} \delta_n = 0$  とする.

$S_n$  は関数  $f(x) + g(x)$  のリーマン和なので  $\int_a^b \{f(x) + g(x)\} dx = \lim_{n \rightarrow \infty} S_n$  .

$T_n$  は関数  $f(x)$  のリーマン和なので  $\lim_{n \rightarrow \infty} T_n = \int_a^b f(x) dx$  .

$U_n$  は関数  $g(x)$  のリーマン和なので  $\lim_{n \rightarrow \infty} U_n = \int_a^b g(x) dx$  .

$S_n = T_n + U_n$  なので,

$$\begin{aligned} \int_a^b \{f(x) + g(x)\} dx &= \lim_{n \rightarrow \infty} S_n = \lim_{n \rightarrow \infty} (T_n + U_n) = \lim_{n \rightarrow \infty} T_n + \lim_{n \rightarrow \infty} U_n \\ &= \int_a^b f(x) dx + \int_a^b g(x) dx \end{aligned}$$

つまり  $\int_a^b \{f(x) + g(x)\} dx = \int_a^b f(x) dx + \int_a^b g(x) dx$  .

例 定積分  $\int_2^6 \left( \frac{x}{8} + \frac{7}{x} \right) dx$  を計算する.

例 定積分  $\int_2^6 \left( \frac{x}{8} + \frac{7}{x} \right) dx$  を計算する.

$$\int_2^6 \left( \frac{x}{8} + \frac{7}{x} \right) dx = \int_2^6 \frac{x}{8} dx + \int_2^6 \frac{7}{x} dx = \frac{1}{8} \int_2^6 x dx + 7 \int_2^6 \frac{1}{x} dx$$

例 定積分  $\int_2^6 \left( \frac{x}{8} + \frac{7}{x} \right) dx$  を計算する.

$$\begin{aligned} \int_2^6 \left( \frac{x}{8} + \frac{7}{x} \right) dx &= \int_2^6 \frac{x}{8} dx + \int_2^6 \frac{7}{x} dx = \frac{1}{8} \int_2^6 x dx + 7 \int_2^6 \frac{1}{x} dx \\ &= \frac{1}{8} \left[ \frac{1}{2} x^2 \right]_2^6 + 7 [\ln |x|]_2^6 = \frac{1}{8} \frac{36 - 4}{2} + 7(\ln 6 - \ln 2) \\ &= 2 + 7 \ln 3 . \end{aligned}$$

例 定積分  $\int_2^6 \left( \frac{x}{8} + \frac{7}{x} \right) dx$  を計算する.

$$\begin{aligned} \int_2^6 \left( \frac{x}{8} + \frac{7}{x} \right) dx &= \int_2^6 \frac{x}{8} dx + \int_2^6 \frac{7}{x} dx = \frac{1}{8} \int_2^6 x dx + 7 \int_2^6 \frac{1}{x} dx \\ &= \frac{1}{8} \left[ \frac{1}{2} x^2 \right]_2^6 + 7 [\ln |x|]_2^6 = \frac{1}{8} \frac{36 - 4}{2} + 7(\ln 6 - \ln 2) \\ &= 2 + 7 \ln 3 . \end{aligned}$$

不定積分を計算してもよい.

例 定積分  $\int_2^6 \left( \frac{x}{8} + \frac{7}{x} \right) dx$  を計算する.

$$\begin{aligned} \int_2^6 \left( \frac{x}{8} + \frac{7}{x} \right) dx &= \int_2^6 \frac{x}{8} dx + \int_2^6 \frac{7}{x} dx = \frac{1}{8} \int_2^6 x dx + 7 \int_2^6 \frac{1}{x} dx \\ &= \frac{1}{8} \left[ \frac{1}{2} x^2 \right]_2^6 + 7 [\ln |x|]_2^6 = \frac{1}{8} \frac{36-4}{2} + 7(\ln 6 - \ln 2) \\ &= 2 + 7 \ln 3 . \end{aligned}$$

不定積分を計算してもよい. 積分定数を  $C$  とおく.

$$\int \left( \frac{x}{8} + \frac{7}{x} \right) dx = \int \frac{x}{8} dx + \int \frac{7}{x} dx = \frac{1}{8} \int x dx + 7 \int \frac{1}{x} dx = \frac{x^2}{16} + 7 \ln |x| + C .$$

例 定積分  $\int_2^6 \left( \frac{x}{8} + \frac{7}{x} \right) dx$  を計算する.

$$\begin{aligned} \int_2^6 \left( \frac{x}{8} + \frac{7}{x} \right) dx &= \int_2^6 \frac{x}{8} dx + \int_2^6 \frac{7}{x} dx = \frac{1}{8} \int_2^6 x dx + 7 \int_2^6 \frac{1}{x} dx \\ &= \frac{1}{8} \left[ \frac{1}{2} x^2 \right]_2^6 + 7 [\ln |x|]_2^6 = \frac{1}{8} \frac{36-4}{2} + 7(\ln 6 - \ln 2) \\ &= 2 + 7 \ln 3 . \end{aligned}$$

不定積分を計算してもよい. 積分定数を  $C$  とおく.

$$\int \left( \frac{x}{8} + \frac{7}{x} \right) dx = \int \frac{x}{8} dx + \int \frac{7}{x} dx = \frac{1}{8} \int x dx + 7 \int \frac{1}{x} dx = \frac{x^2}{16} + 7 \ln |x| + C .$$

$$\begin{aligned} \int_2^6 \left( \frac{x}{8} + \frac{7}{x} \right) dx &= \left[ \frac{x^2}{16} + 7 \ln |x| \right]_2^6 = \frac{36}{16} + 7 \ln 6 - \frac{4}{16} - 7 \ln 2 \\ &= \frac{9}{4} - \frac{1}{4} + 7(\ln 6 - \ln 2) \\ &= 2 + 7 \ln 3 . \end{aligned}$$

問6.9.1 定積分  $\int_{\pi}^{2\pi} \frac{x - 4 \sin x}{3} dx$  を計算せよ.

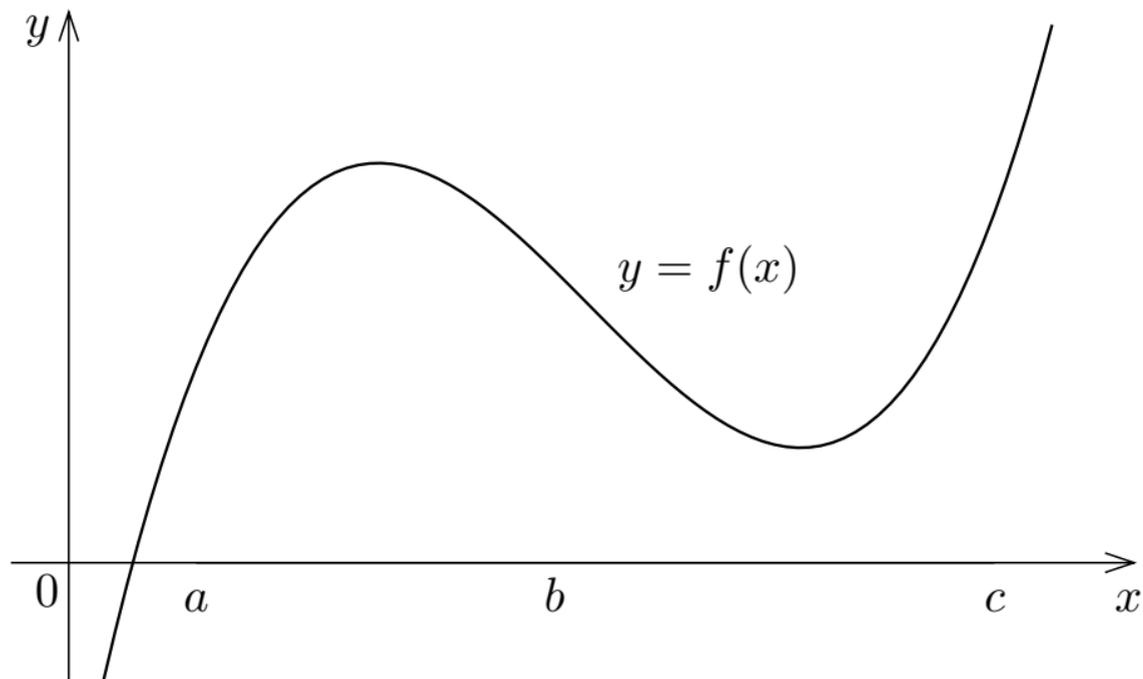
$$\begin{aligned} \int_{\pi}^{2\pi} \frac{x - 4 \sin x}{3} dx &= \left( \int_{\pi}^{2\pi} dx - \int_{\pi}^{2\pi} dx \right) \\ &= \left\{ \left[ \quad \right]_{\pi}^{2\pi} - \left[ \quad \right]_{\pi}^{2\pi} \right\} \\ &= \end{aligned}$$

問6.9.1 定積分  $\int_{\pi}^{2\pi} \frac{x - 4 \sin x}{3} dx$  を計算せよ.

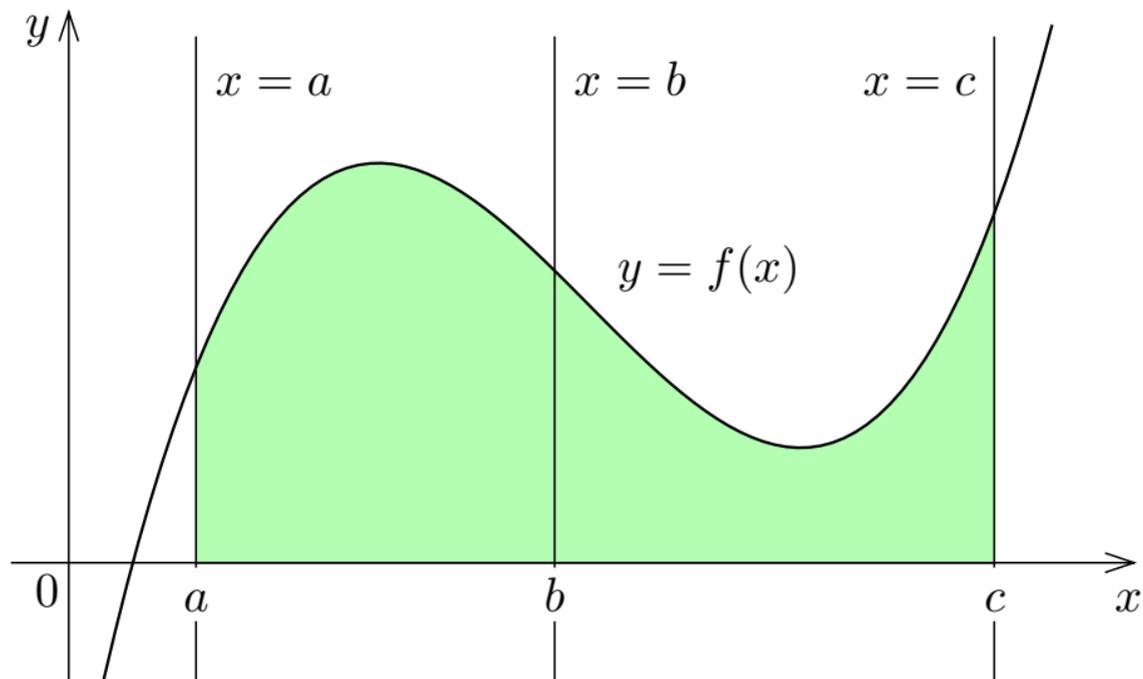
$$\begin{aligned}\int_{\pi}^{2\pi} \frac{x - 4 \sin x}{3} dx &= \frac{1}{3} \left( \int_{\pi}^{2\pi} x dx - 4 \int_{\pi}^{2\pi} \sin x dx \right) \\ &= \frac{1}{3} \left\{ \left[ \frac{1}{2} x^2 \right]_{\pi}^{2\pi} - 4 \left[ -\cos x \right]_{\pi}^{2\pi} \right\} \\ &= \frac{1}{3} \left[ \frac{4\pi^2 - \pi^2}{2} - 4 \{ -1 + (-1) \} \right] \\ &= \frac{\pi^2}{2} + \frac{8}{3} .\end{aligned}$$

終

実数  $a, b, c$  について  $a \leq b \leq c$  とする。また、関数  $f$  は  $a$  から  $c$  まで積分可能であり、区間  $[a, c]$  の各実数  $x$  について  $f(x) \geq 0$  とする。

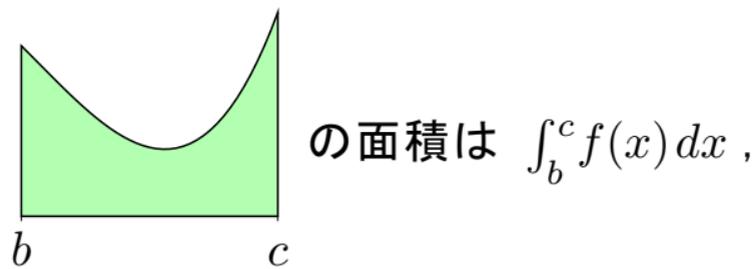
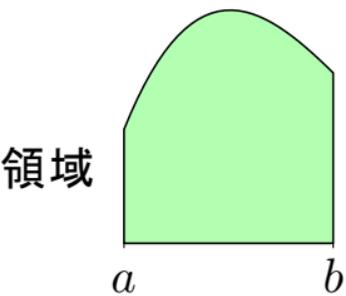


実数  $a, b, c$  について  $a \leq b \leq c$  とする。また、関数  $f$  は  $a$  から  $c$  まで積分可能であり、区間  $[a, c]$  の各実数  $x$  について  $f(x) \geq 0$  とする。右図のように、 $xy$  座標平面において、 $y = f(x)$  のグラフと直線  $x = a$  と  $x = c$  と  $x$  軸とで囲まれる領域を、直線  $x = b$  で仕切る。

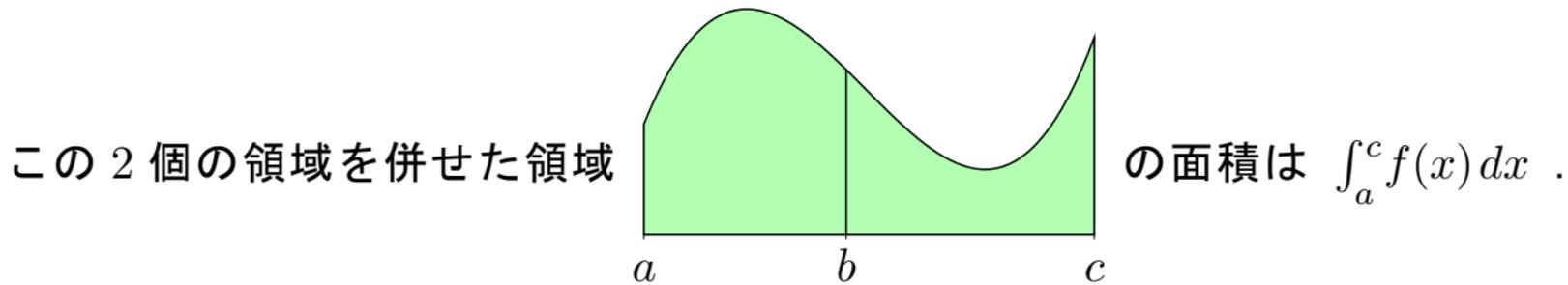
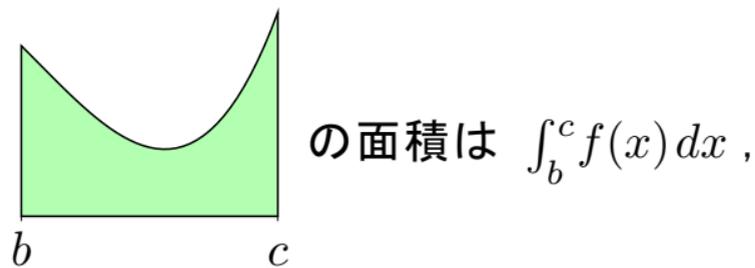
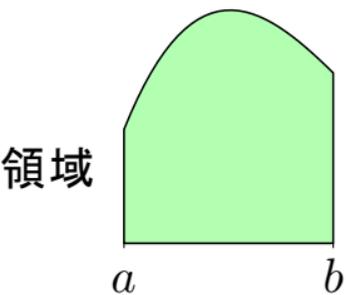


6.2 節で述べたように次のことが成り立つ.

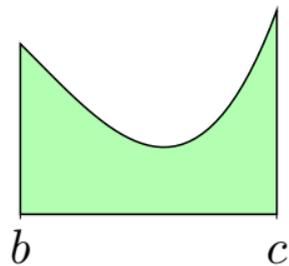
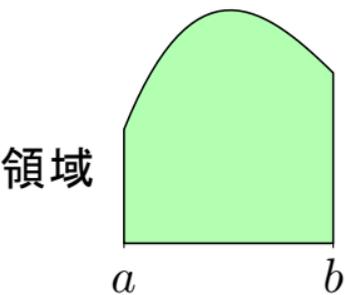
6.2節で述べたように次のことが成り立つ.



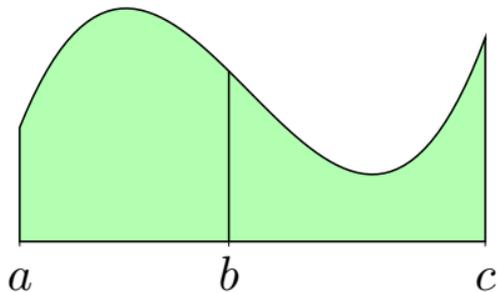
6.2節で述べたように次のことが成り立つ.



6.2節で述べたように次のことが成り立つ。



この2個の領域を併せた領域

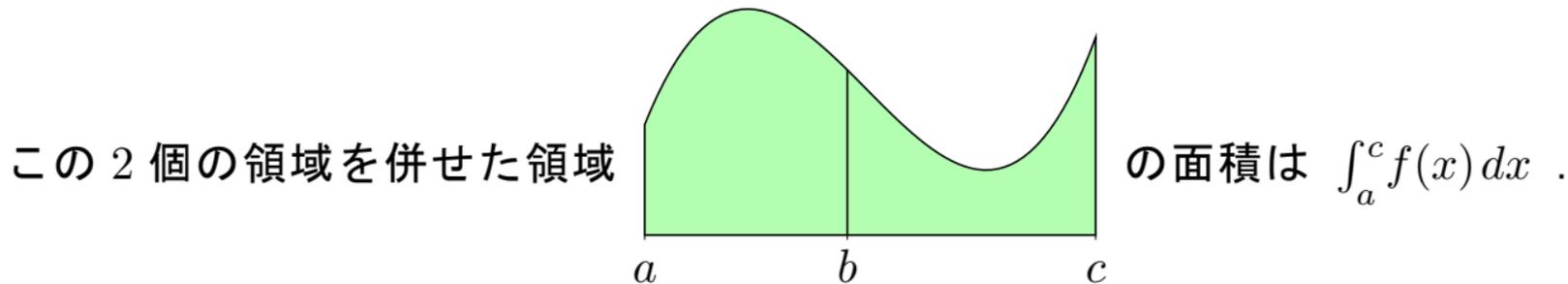
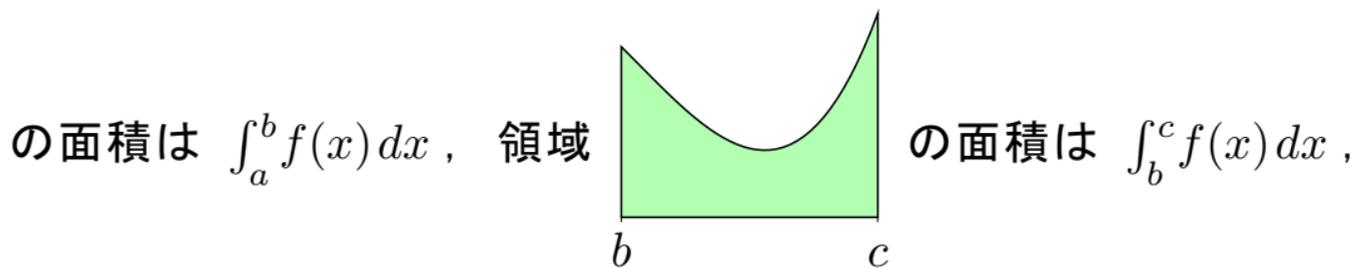
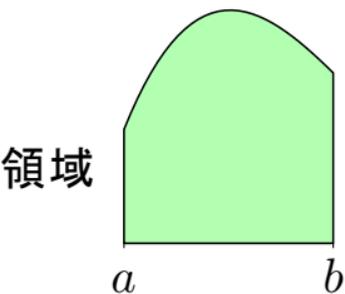


の面積は  $\int_a^c f(x) dx$  .

このことから次の等式が成り立つことが分かる :

$$\int_a^b f(x) dx + \int_b^c f(x) dx = \int_a^c f(x) dx .$$

6.2節で述べたように次のことが成り立つ。



このことから次の等式が成り立つことが分かる :

$$\int_a^b f(x) dx + \int_b^c f(x) dx = \int_a^c f(x) dx .$$

この等式は、実数  $a, b, c$  の大小関係に関わらず成り立つ。

**定理** 実数  $a, b, c$  に対して, 関数  $f$  が  $a$  から  $b$  まで積分可能でありかつ  $b$  から  $c$  まで積分可能であるとき,  $f$  は  $a$  から  $c$  まで積分可能であり,

$$\int_a^c f(x) dx = \int_a^b f(x) dx + \int_b^c f(x) dx .$$

**定理** 実数  $a, b, c$  に対して, 関数  $f$  が  $a$  から  $b$  まで積分可能でありかつ  $b$  から  $c$  まで積分可能であるとき,  $f$  は  $a$  から  $c$  まで積分可能であり,

$$\int_a^c f(x) dx = \int_a^b f(x) dx + \int_b^c f(x) dx .$$

実数  $a, b, c$  について  $a \leq b \leq c$  で, 関数  $f$  が  $a$  から  $b$  まで積分可能でありかつ  $b$  から  $c$  まで積分可能であるとする. 次のことを示す:

$$\int_a^c f(x) dx = \int_a^b f(x) dx + \int_b^c f(x) dx .$$

正の各実数  $n$  に対して,

$$a = x_0 \leq \xi_1 \leq x_1 \leq \xi_2 \leq x_2 \leq \xi_3 \leq x_3 \leq \cdots \leq x_{n-1} \leq \xi_n \leq x_n = c$$

である実数  $x_0, x_1, x_2, x_3, \dots, x_{n-1}, x_n$  及び  $\xi_1, \xi_2, \xi_3, \dots, \xi_n$  をとり,

$$\delta_n = \max\{x_1 - x_0, x_2 - x_1, x_3 - x_2, \dots, x_n - x_{n-1}\},$$

$$S_n = \sum_{k=1}^n \{f(\xi_k)(x_k - x_{k-1})\}$$

とおく.  $S_n$  は  $a$  以上  $c$  以下の範囲の関数  $f(x)$  のリーマン和である.

次のような正の自然数  $l$  をとる :  $l < n$  で,

$$a = x_0 \leq \xi_1 \leq x_1 \leq \xi_2 \leq x_2 \leq \xi_3 \leq x_3 \leq \cdots \leq x_{l-1} \leq \xi_l \leq x_l \leq b ,$$

$$b \leq \xi_{l+1} \leq x_{l+1} \leq \xi_{l+2} \leq x_{l+2} \leq \xi_{l+3} \leq x_{l+3} \leq \cdots \leq x_{n-1} \leq \xi_n \leq x_n = c .$$

次のような正の自然数  $l$  をとる :  $l < n$  で,

$$a = x_0 \leq \xi_1 \leq x_1 \leq \xi_2 \leq x_2 \leq \xi_3 \leq x_3 \leq \cdots \leq x_{l-1} \leq \xi_l \leq x_l \leq b ,$$

$$b \leq \xi_{l+1} \leq x_{l+1} \leq \xi_{l+2} \leq x_{l+2} \leq \xi_{l+3} \leq x_{l+3} \leq \cdots \leq x_{n-1} \leq \xi_n \leq x_n = c .$$

$m = n - l$  ,  $j = k - l$  とおく. 変数  $k$  の値が  $l + 1$  から  $n$  までの自然数であるとき変数  $j$  の値は  $1$  から  $n - l = m$  までの自然数である.

次のような正の自然数  $l$  をとる :  $l < n$  で,

$$a = x_0 \leq \xi_1 \leq x_1 \leq \xi_2 \leq x_2 \leq \xi_3 \leq x_3 \leq \cdots \leq x_{l-1} \leq \xi_l \leq x_l \leq b ,$$

$$b \leq \xi_{l+1} \leq x_{l+1} \leq \xi_{l+2} \leq x_{l+2} \leq \xi_{l+3} \leq x_{l+3} \leq \cdots \leq x_{n-1} \leq \xi_n \leq x_n = c .$$

$m = n - l$  ,  $j = k - l$  とおく . 変数  $k$  の値が  $l + 1$  から  $n$  までの自然数であるとき変数  $j$  の値は  $1$  から  $n - l = m$  までの自然数である .

$$T_l = \sum_{k=1}^l \{f(\xi_k)(x_k - x_{k-1})\} ,$$

$$U_m = \sum_{k=l+1}^n \{f(\xi_k)(x_k - x_{k-1})\} = \sum_{j=1}^m \{f(\xi_{l+j})(x_{l+j} - x_{l+j-1})\}$$

とおく .  $T_l$  は  $a$  以上  $b$  以下の範囲の関数  $f(x)$  のリーマン和であり ,  $U_m$  は  $b$  以上  $c$  以下の範囲の関数  $f(x)$  のリーマン和である .

次のような正の自然数  $l$  をとる :  $l < n$  で,

$$a = x_0 \leq \xi_1 \leq x_1 \leq \xi_2 \leq x_2 \leq \xi_3 \leq x_3 \leq \cdots \leq x_{l-1} \leq \xi_l \leq x_l \leq b ,$$

$$b \leq \xi_{l+1} \leq x_{l+1} \leq \xi_{l+2} \leq x_{l+2} \leq \xi_{l+3} \leq x_{l+3} \leq \cdots \leq x_{n-1} \leq \xi_n \leq x_n = c .$$

$m = n - l$  ,  $j = k - l$  とおく . 変数  $k$  の値が  $l + 1$  から  $n$  までの自然数であるとき変数  $j$  の値は  $1$  から  $n - l = m$  までの自然数である .

$$T_l = \sum_{k=1}^l \{f(\xi_k)(x_k - x_{k-1})\} ,$$

$$U_m = \sum_{k=l+1}^n \{f(\xi_k)(x_k - x_{k-1})\} = \sum_{j=1}^m \{f(\xi_{l+j})(x_{l+j} - x_{l+j-1})\}$$

とおく .  $T_l$  は  $a$  以上  $b$  以下の範囲の関数  $f(x)$  のリーマン和であり ,  $U_m$  は  $b$  以上  $c$  以下の範囲の関数  $f(x)$  のリーマン和である .

$$\begin{aligned} S_n &= \sum_{k=1}^n \{f(\xi_k)(x_k - x_{k-1})\} = \sum_{k=1}^l \{f(\xi_k)(x_k - x_{k-1})\} + \sum_{k=l+1}^n \{f(\xi_k)(x_k - x_{k-1})\} \\ &= T_l + U_m . \end{aligned}$$

$a$  以上  $c$  以下の範囲の関数  $f(x)$  のリーマン和  $S_n$  を,  $a$  以上  $b$  以下の範囲の関数  $f(x)$  のリーマン和  $T_l$  と  $b$  以上  $c$  以下の範囲の関数  $f(x)$  のリーマン和  $U_m$  とに分けることができます,

$$S_n = T_l + U_m .$$

$a$  以上  $c$  以下の範囲の関数  $f(x)$  のリーマン和  $S_n$  を,  $a$  以上  $b$  以下の範囲の関数  $f(x)$  のリーマン和  $T_l$  と  $b$  以上  $c$  以下の範囲の関数  $f(x)$  のリーマン和  $U_m$  とに分けることができ,

$$S_n = T_l + U_m .$$

$\lim_{n \rightarrow \infty} \delta_n = 0$  とする. 関数  $f(x)$  が  $a$  から  $b$  まで積分可能でありかつ  $b$  から  $c$  まで積分可能であるので,

$$\lim_{l \rightarrow \infty} T_l = \int_a^b f(x) dx , \quad \lim_{m \rightarrow \infty} U_m = \int_b^c f(x) dx .$$

$a$  以上  $c$  以下の範囲の関数  $f(x)$  のリーマン和  $S_n$  を,  $a$  以上  $b$  以下の範囲の関数  $f(x)$  のリーマン和  $T_l$  と  $b$  以上  $c$  以下の範囲の関数  $f(x)$  のリーマン和  $U_m$  とに分けることができ,

$$S_n = T_l + U_m .$$

$\lim_{n \rightarrow \infty} \delta_n = 0$  とする. 関数  $f(x)$  が  $a$  から  $b$  まで積分可能でありかつ  $b$  から  $c$  まで積分可能であるので,

$$\lim_{l \rightarrow \infty} T_l = \int_a^b f(x) dx , \quad \lim_{m \rightarrow \infty} U_m = \int_b^c f(x) dx .$$

故に

$$\begin{aligned} \int_a^c f(x) dx &= \lim_{n \rightarrow \infty} S_n = \lim_{l, m \rightarrow \infty} (T_l + U_m) = \lim_{l \rightarrow \infty} T_l + \lim_{m \rightarrow \infty} U_m \\ &= \int_a^b f(x) dx + \int_b^c f(x) dx \end{aligned}$$

つまり  $\int_a^c f(x) dx = \int_a^b f(x) dx + \int_b^c f(x) dx$  .

**定理** 実数  $a$  と  $b$  について  $a \leq b$  で, 関数  $f$  と  $g$  とは  $a$  から  $b$  まで積分可能であるとする. 区間  $[a, b]$  の各実数  $x$  について  $f(x) \leq g(x)$  ならば,

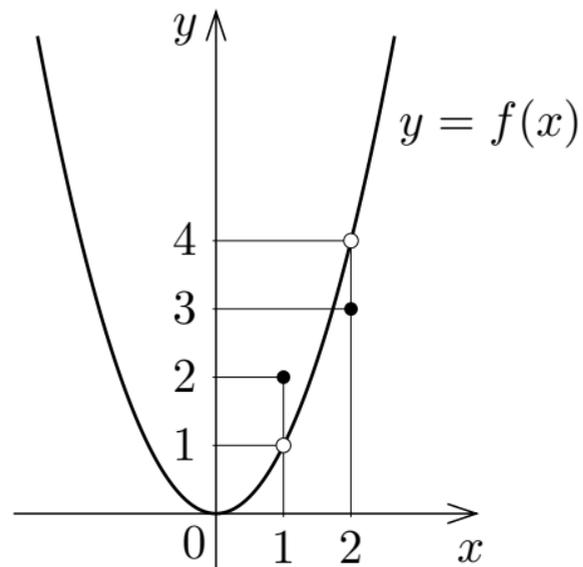
$$\int_a^b f(x) dx \leq \int_a^b g(x) dx .$$

証明は略す.

例として関数  $f$  を次のように定める：

$$f(x) = \begin{cases} x^2 & (x \neq 1 \text{ かつ } x \neq 2 \text{ のとき}) \\ 2 & (x = 1 \text{ のとき}) \\ 3 & (x = 2 \text{ のとき}) \end{cases}$$

$x = 1$  のときと  $x = 2$  のときだけ  $f(x) \neq x^2$   
で、それ以外のときは  $f(x) = x^2$  .

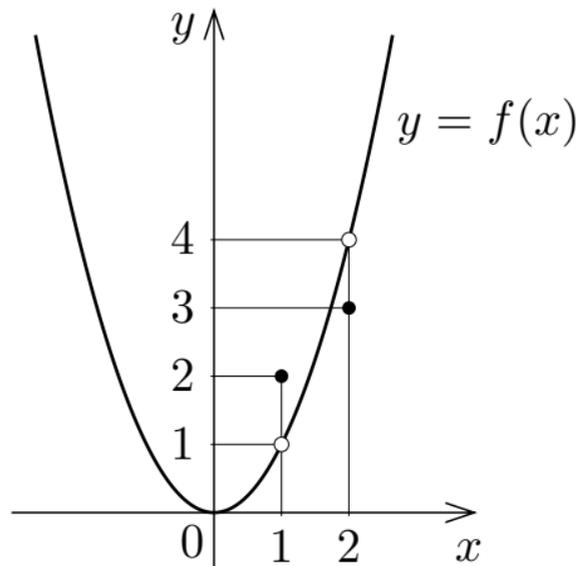


例として関数  $f$  を次のように定める：

$$f(x) = \begin{cases} x^2 & (x \neq 1 \text{ かつ } x \neq 2 \text{ のとき}) \\ 2 & (x = 1 \text{ のとき}) \\ 3 & (x = 2 \text{ のとき}) \end{cases} .$$

$x = 1$  のときと  $x = 2$  のときだけ  $f(x) \neq x^2$  で、それ以外のときは  $f(x) = x^2$  . このとき、定積分  $\int_0^3 f(x) dx$  と  $\int_0^3 x^2 dx$  とは等しい：

$$\begin{aligned} \int_0^3 f(x) dx &= \int_0^3 x^2 dx = \left[ \frac{1}{3} x^3 \right]_0^3 = \frac{1}{3} 3^3 - 0 \\ &= 9 . \end{aligned}$$



一般的にいうと次のようになる：関数  $f$  が  $a$  から  $b$  まで積分可能であるとき，関数  $g$  について，区間  $[a, b]$  の有限個の実数  $c_1, c_2, c_3, \dots, c_n$  を除く  $[a, b]$  の各実数  $x$  について  $g(x) = f(x)$  ならば，つまり， $a \leq x \leq b$  である実数  $x$  について  $x \neq c_1$ ， $x \neq c_2$ ， $x \neq c_3$ ， $\dots$ ， $x \neq c_n$  のとき  $g(x) = f(x)$  ならば，
$$\int_a^b g(x) dx = \int_a^b f(x) dx .$$

一般的にいうと次のようになる：関数  $f$  が  $a$  から  $b$  まで積分可能であるとき，関数  $g$  について，区間  $[a, b]$  の有限個の実数  $c_1, c_2, c_3, \dots, c_n$  を除く  $[a, b]$  の各実数  $x$  について  $g(x) = f(x)$  ならば，つまり， $a \leq x \leq b$  である実数  $x$  について  $x \neq c_1$ ， $x \neq c_2$ ， $x \neq c_3$ ， $\dots$ ， $x \neq c_n$  のとき  $g(x) = f(x)$  ならば，
$$\int_a^b g(x) dx = \int_a^b f(x) dx .$$

**定理** 実数  $a$  と  $b$  とについて  $a \leq b$  で，関数  $f$  は  $a$  から  $b$  まで積分可能であるとする．関数  $g$  について，区間  $[a, b]$  の有限個の実数を除く  $[a, b]$  の各実数  $x$  について  $g(x) = f(x)$  ならば， $g$  は  $a$  から  $b$  まで積分可能であり，
$$\int_a^b g(x) dx = \int_a^b f(x) dx .$$

証明は略す．

**例** 実数全体を定義域とする関数  $g$  を次のように定める：

$$g(x) = \begin{cases} 3^x & (x \neq 2 \text{ のとき}) \\ 5 & (x = 2 \text{ のとき}) \end{cases} .$$

$g$  の定積分  $\int_0^4 g(x) dx$  を計算する.

**例** 実数全体を定義域とする関数  $g$  を次のように定める：

$$g(x) = \begin{cases} 3^x & (x \neq 2 \text{ のとき}) \\ 5 & (x = 2 \text{ のとき}) \end{cases} .$$

$g$  の定積分  $\int_0^4 g(x) dx$  を計算する.

$0 \leq x \leq 4$  である各実数  $x$  について  $x \neq 2$  のとき  $g(x) = 3^x$  なので,

$$\int_0^4 g(x) dx = \int_0^4 3^x dx .$$

**例** 実数全体を定義域とする関数  $g$  を次のように定める：

$$g(x) = \begin{cases} 3^x & (x \neq 2 \text{ のとき}) \\ 5 & (x = 2 \text{ のとき}) \end{cases} .$$

$g$  の定積分  $\int_0^4 g(x) dx$  を計算する.

$0 \leq x \leq 4$  である各実数  $x$  について  $x \neq 2$  のとき  $g(x) = 3^x$  なので、  
 $\int_0^4 g(x) dx = \int_0^4 3^x dx$  .  $\int_0^4 3^x dx$  を計算する：

$$\int_0^4 3^x dx = \left[ \frac{3^x}{\ln 3} \right]_0^4 = \frac{3^4 - 1}{\ln 3} = \frac{80}{\ln 3} .$$

**例** 実数全体を定義域とする関数  $g$  を次のように定める：

$$g(x) = \begin{cases} 3^x & (x \neq 2 \text{ のとき}) \\ 5 & (x = 2 \text{ のとき}) \end{cases} .$$

$g$  の定積分  $\int_0^4 g(x) dx$  を計算する.

$0 \leq x \leq 4$  である各実数  $x$  について  $x \neq 2$  のとき  $g(x) = 3^x$  なので,  
 $\int_0^4 g(x) dx = \int_0^4 3^x dx$  .  $\int_0^4 3^x dx$  を計算する：

$$\int_0^4 3^x dx = \left[ \frac{3^x}{\ln 3} \right]_0^4 = \frac{3^4 - 1}{\ln 3} = \frac{80}{\ln 3} .$$

故に  $\int_0^4 g(x) dx = \frac{80}{\ln 3}$  .

**終**

問6.9.2 実数全体を定義域とする関数  $g$  を次のように定める：

$$g(x) = \begin{cases} \frac{9}{2x^2 + 6} & (x \neq 2 \text{ のとき}) \\ 7 & (x = 2 \text{ のとき}) \end{cases} .$$

定積分  $\int_1^3 g(x) dx$  を計算せよ.

$x \neq 2$  のとき  $g(x) = \frac{9}{2x^2 + 6}$  なので,

$$\int_1^3 g(x) dx =$$

問6.9.2 実数全体を定義域とする関数  $g$  を次のように定める：

$$g(x) = \begin{cases} \frac{9}{2x^2 + 6} & (x \neq 2 \text{ のとき}) \\ 7 & (x = 2 \text{ のとき}) \end{cases} .$$

定積分  $\int_1^3 g(x) dx$  を計算せよ.

$x \neq 2$  のとき  $g(x) = \frac{9}{2x^2 + 6}$  なので,

$$\int_1^3 g(x) dx = \int_1^3 \frac{9}{2x^2 + 6} dx = \frac{9}{2} \int_1^3 \frac{1}{x^2 + 3} dx$$

問6.9.2 実数全体を定義域とする関数  $g$  を次のように定める：

$$g(x) = \begin{cases} \frac{9}{2x^2 + 6} & (x \neq 2 \text{ のとき}) \\ 7 & (x = 2 \text{ のとき}) \end{cases} .$$

定積分  $\int_1^3 g(x) dx$  を計算せよ.

$x \neq 2$  のとき  $g(x) = \frac{9}{2x^2 + 6}$  なので,

$$\begin{aligned} \int_1^3 g(x) dx &= \int_1^3 \frac{9}{2x^2 + 6} dx = \frac{9}{2} \int_1^3 \frac{1}{x^2 + 3} dx \\ &= \frac{9}{2} \left[ \frac{1}{\sqrt{3}} \tan^{-1} \frac{x}{\sqrt{3}} \right]_1^3 = \frac{3\sqrt{3}}{2} \left( \frac{\pi}{3} - \frac{\pi}{6} \right) \\ &= \frac{\sqrt{3}\pi}{4} . \end{aligned}$$

終

例 関数  $f$  について,  $3 < x < 7$  のとき  $f(x) = \frac{1}{x}$  とする. 定積分  $\int_3^7 f(x) dx$  を計算する.

例 関数  $f$  について、 $3 < x < 7$  のとき  $f(x) = \frac{1}{x}$  とする。定積分  $\int_3^7 f(x) dx$  を計算する。

$3 \leq x \leq 7$  である各実数  $x$  について、 $x \neq 3$  ,  $x \neq 7$  のとき  $f(x) = \frac{1}{x}$

なので、 $\int_3^7 f(x) dx = \int_3^7 \frac{1}{x} dx$  .

**例** 関数  $f$  について,  $3 < x < 7$  のとき  $f(x) = \frac{1}{x}$  とする. 定積分  $\int_3^7 f(x) dx$  を計算する.

$3 \leq x \leq 7$  である各実数  $x$  について,  $x \neq 3$ ,  $x \neq 7$  のとき  $f(x) = \frac{1}{x}$

なので,  $\int_3^7 f(x) dx = \int_3^7 \frac{1}{x} dx$  . よって,

$$\int_3^7 f(x) dx = \int_3^7 \frac{1}{x} dx = [\ln x]_3^7 = \ln 7 - \ln 3 = \ln \frac{7}{3} .$$

**終**

**問6.9.3** 関数  $f$  について,  $0 < x < \frac{3}{2}$  のとき  $f(x) = \sqrt{\frac{5}{6-2x^2}}$  とする. 定

積分  $\int_0^{\frac{3}{2}} f(x) dx$  を計算せよ.

$0 \leq x \leq \frac{3}{2}$  である各実数  $x$  について,  $x \neq 0$ ,  $x \neq \frac{3}{2}$  のとき

$$f(x) = \sqrt{\frac{5}{6-2x^2}} \quad \text{なので,}$$

$$\int_0^{\frac{3}{2}} f(x) dx =$$

**問6.9.3** 関数  $f$  について,  $0 < x < \frac{3}{2}$  のとき  $f(x) = \sqrt{\frac{5}{6-2x^2}}$  とする. 定

積分  $\int_0^{\frac{3}{2}} f(x) dx$  を計算せよ.

$0 \leq x \leq \frac{3}{2}$  である各実数  $x$  について,  $x \neq 0$ ,  $x \neq \frac{3}{2}$  のとき

$f(x) = \sqrt{\frac{5}{6-2x^2}}$  なので,

$$\int_0^{\frac{3}{2}} f(x) dx = \int_0^{\frac{3}{2}} \sqrt{\frac{5}{6-2x^2}} dx = \int_0^{\frac{3}{2}} \frac{\sqrt{5}}{\sqrt{2(3-x^2)}} dx = \frac{\sqrt{5}}{\sqrt{2}} \int_0^{\frac{3}{2}} \frac{1}{\sqrt{3-x^2}} dx$$

**問6.9.3** 関数  $f$  について,  $0 < x < \frac{3}{2}$  のとき  $f(x) = \sqrt{\frac{5}{6-2x^2}}$  とする. 定

積分  $\int_0^{\frac{3}{2}} f(x) dx$  を計算せよ.

$0 \leq x \leq \frac{3}{2}$  である各実数  $x$  について,  $x \neq 0$ ,  $x \neq \frac{3}{2}$  のとき

$f(x) = \sqrt{\frac{5}{6-2x^2}}$  なので,

$$\begin{aligned}\int_0^{\frac{3}{2}} f(x) dx &= \int_0^{\frac{3}{2}} \sqrt{\frac{5}{6-2x^2}} dx = \int_0^{\frac{3}{2}} \frac{\sqrt{5}}{\sqrt{2(3-x^2)}} dx = \frac{\sqrt{5}}{\sqrt{2}} \int_0^{\frac{3}{2}} \frac{1}{\sqrt{3-x^2}} dx \\ &= \frac{\sqrt{10}}{2} \left[ \sin^{-1} \frac{x}{\sqrt{3}} \right]_0^{\frac{3}{2}} = \frac{\sqrt{10}}{2} \left( \sin^{-1} \frac{\sqrt{3}}{2} - \sin^{-1} 0 \right) = \frac{\sqrt{10}}{2} \cdot \frac{\pi}{3} \\ &= \frac{\sqrt{10}\pi}{6} .\end{aligned}$$

終

**例** 実数全体を定義域とする関数  $\psi$  を次のように定める：

$$\psi(x) = \begin{cases} \cos x & (x \leq 5 \text{ のとき}) \\ \sin 5 & (x > 5 \text{ のとき}) \end{cases} .$$

定積分  $\int_0^{2\pi} \psi(x) dx$  を計算する.

**例** 実数全体を定義域とする関数  $\psi$  を次のように定める：

$$\psi(x) = \begin{cases} \cos x & (x \leq 5 \text{ のとき}) \\ \sin 5 & (x > 5 \text{ のとき}) \end{cases} .$$

定積分  $\int_0^{2\pi} \psi(x) dx$  を計算する.

$\int_0^{2\pi} \psi(x) dx = \int_0^5 \psi(x) dx + \int_5^{2\pi} \psi(x) dx$  .  $\int_0^5 \psi(x) dx$  及び  $\int_5^{2\pi} \psi(x) dx$  を計算する.

**例** 実数全体を定義域とする関数  $\psi$  を次のように定める：

$$\psi(x) = \begin{cases} \cos x & (x \leq 5 \text{ のとき}) \\ \sin 5 & (x > 5 \text{ のとき}) \end{cases} .$$

定積分  $\int_0^{2\pi} \psi(x) dx$  を計算する.

$\int_0^{2\pi} \psi(x) dx = \int_0^5 \psi(x) dx + \int_5^{2\pi} \psi(x) dx$  .  $\int_0^5 \psi(x) dx$  及び  $\int_5^{2\pi} \psi(x) dx$  を計算する.  $0 \leq x \leq 5$  である各実数  $x$  について  $\psi(x) = \cos x$  なので,

$$\int_0^5 \psi(x) dx = \int_0^5 \cos x dx = [\sin x]_0^5 = \sin 5 - \sin 0 = \sin 5 .$$

**例** 実数全体を定義域とする関数  $\psi$  を次のように定める：

$$\psi(x) = \begin{cases} \cos x & (x \leq 5 \text{ のとき}) \\ \sin 5 & (x > 5 \text{ のとき}) \end{cases} .$$

定積分  $\int_0^{2\pi} \psi(x) dx$  を計算する.

$\int_0^{2\pi} \psi(x) dx = \int_0^5 \psi(x) dx + \int_5^{2\pi} \psi(x) dx$  .  $\int_0^5 \psi(x) dx$  及び  $\int_5^{2\pi} \psi(x) dx$  を計算する.  $0 \leq x \leq 5$  である各実数  $x$  について  $\psi(x) = \cos x$  なので,

$$\int_0^5 \psi(x) dx = \int_0^5 \cos x dx = [\sin x]_0^5 = \sin 5 - \sin 0 = \sin 5 .$$

$5 \leq x \leq 2\pi$  である実数  $x$  について  $x \neq 5$  のとき  $\psi(x) = \sin 5$  なので,

$$\int_5^{2\pi} \psi(x) dx = \int_5^{2\pi} \sin 5 dx = (\sin 5) \int_5^{2\pi} 1 dx = (\sin 5) [x]_5^{2\pi} = (2\pi - 5) \sin 5 .$$

**例** 実数全体を定義域とする関数  $\psi$  を次のように定める：

$$\psi(x) = \begin{cases} \cos x & (x \leq 5 \text{ のとき}) \\ \sin 5 & (x > 5 \text{ のとき}) \end{cases} .$$

定積分  $\int_0^{2\pi} \psi(x) dx$  を計算する.

$\int_0^{2\pi} \psi(x) dx = \int_0^5 \psi(x) dx + \int_5^{2\pi} \psi(x) dx$  .  $\int_0^5 \psi(x) dx$  及び  $\int_5^{2\pi} \psi(x) dx$  を計算する.  $0 \leq x \leq 5$  である各実数  $x$  について  $\psi(x) = \cos x$  なので,

$$\int_0^5 \psi(x) dx = \int_0^5 \cos x dx = [\sin x]_0^5 = \sin 5 - \sin 0 = \sin 5 .$$

$5 \leq x \leq 2\pi$  である実数  $x$  について  $x \neq 5$  のとき  $\psi(x) = \sin 5$  なので,

$$\int_5^{2\pi} \psi(x) dx = \int_5^{2\pi} \sin 5 dx = (\sin 5) \int_5^{2\pi} 1 dx = (\sin 5) [x]_5^{2\pi} = (2\pi - 5) \sin 5 .$$

従って,

$$\begin{aligned} \int_0^{2\pi} \psi(x) dx &= \int_0^5 \psi(x) dx + \int_5^{2\pi} \psi(x) dx = \sin 5 + (2\pi - 5) \sin 5 \\ &= (2\pi - 4) \sin 5 . \end{aligned}$$

**終**

**問6.9.4** 実数全体を定義域とする関数  $\varphi$  を次のように定める：

$$\varphi(x) = \begin{cases} \sin x & (x \leq 2 \text{ のとき}) \\ \cos 2 & (x > 2 \text{ のとき}) \end{cases} .$$

定積分  $\int_0^\pi \varphi(x) dx$  を計算せよ.

$$\int_0^\pi \varphi(x) dx = \int_0^2 \varphi(x) dx + \int_2^\pi \varphi(x) dx .$$

$$\int_0^2 \varphi(x) dx = \int_0^2 \quad dx =$$

$$\int_2^\pi \varphi(x) dx = \int_2^\pi \quad dx = ( \quad ) \int_2^\pi dx =$$

よって

$$\int_0^\pi \varphi(x) dx = \int_0^2 \varphi(x) dx + \int_2^\pi \varphi(x) dx =$$

**問6.9.4** 実数全体を定義域とする関数  $\varphi$  を次のように定める：

$$\varphi(x) = \begin{cases} \sin x & (x \leq 2 \text{ のとき}) \\ \cos 2 & (x > 2 \text{ のとき}) \end{cases} .$$

定積分  $\int_0^\pi \varphi(x) dx$  を計算せよ.

$$\int_0^\pi \varphi(x) dx = \int_0^2 \varphi(x) dx + \int_2^\pi \varphi(x) dx .$$

$$\int_0^2 \varphi(x) dx = \int_0^2 \sin x dx = [-\cos x]_0^2 = -\cos 2 + \cos 0 = 1 - \cos 2 .$$

$$\int_2^\pi \varphi(x) dx = \int_2^\pi \cos 2 dx = (\cos 2) \int_2^\pi 1 dx = (\cos 2) [x]_2^\pi = (\pi - 2) \cos 2 .$$

よって

$$\begin{aligned} \int_0^\pi \varphi(x) dx &= \int_0^2 \varphi(x) dx + \int_2^\pi \varphi(x) dx = 1 - \cos 2 + (\pi - 2) \cos 2 \\ &= 1 + (\pi - 3) \cos 2 . \end{aligned}$$

終

変数  $x$  の関数  $f(x)$  の絶対値  $|f(x)|$  の定積分を計算するためには,  
 $f(x) \geq 0$  である  $x$  の値の範囲と  $f(x) \leq 0$  である  $x$  の値の範囲とに分けて  
定積分する.

**例** 定積分  $\int_0^3 |e^x - 5| dx$  を計算する.

**例** 定積分  $\int_0^3 |e^x - 5| dx$  を計算する.

$0 \leq x \leq 3$  である実数  $x$  について,  $e^x - 5 = 0$  とすると  $x =$  .

**例** 定積分  $\int_0^3 |e^x - 5| dx$  を計算する.

$0 \leq x \leq 3$  である実数  $x$  について,  $e^x - 5 = 0$  とすると  $x = \ln 5$  .

**例** 定積分  $\int_0^3 |e^x - 5| dx$  を計算する.

$0 \leq x \leq 3$  である実数  $x$  について,  $e^x - 5 = 0$  とすると  $x = \ln 5$ .

$0 \leq x \leq \ln 5$  のとき,  $e^x \leq e^{\ln 5} = 5$ ,  $e^x - 5 \leq 0$ ,  $|e^x - 5| =$  .

**例** 定積分  $\int_0^3 |e^x - 5| dx$  を計算する.

$0 \leq x \leq 3$  である実数  $x$  について,  $e^x - 5 = 0$  とすると  $x = \ln 5$ .

$0 \leq x \leq \ln 5$  のとき,  $e^x \leq e^{\ln 5} = 5$ ,  $e^x - 5 \leq 0$ ,  $|e^x - 5| = 5 - e^x$ .

**例** 定積分  $\int_0^3 |e^x - 5| dx$  を計算する.

$0 \leq x \leq 3$  である実数  $x$  について,  $e^x - 5 = 0$  とすると  $x = \ln 5$ .

$0 \leq x \leq \ln 5$  のとき,  $e^x \leq e^{\ln 5} = 5$ ,  $e^x - 5 \leq 0$ ,  $|e^x - 5| = 5 - e^x$ .

$\ln 5 \leq x \leq 3$  のとき,  $e^x \geq e^{\ln 5} = 5$ ,  $e^x - 5 \geq 0$ ,  $|e^x - 5| =$  .

**例** 定積分  $\int_0^3 |e^x - 5| dx$  を計算する.

$0 \leq x \leq 3$  である実数  $x$  について,  $e^x - 5 = 0$  とすると  $x = \ln 5$ .

$0 \leq x \leq \ln 5$  のとき,  $e^x \leq e^{\ln 5} = 5$ ,  $e^x - 5 \leq 0$ ,  $|e^x - 5| = 5 - e^x$ .

$\ln 5 \leq x \leq 3$  のとき,  $e^x \geq e^{\ln 5} = 5$ ,  $e^x - 5 \geq 0$ ,  $|e^x - 5| = e^x - 5$ .

**例** 定積分  $\int_0^3 |e^x - 5| dx$  を計算する.

$0 \leq x \leq 3$  である実数  $x$  について,  $e^x - 5 = 0$  とすると  $x = \ln 5$ .

$0 \leq x \leq \ln 5$  のとき,  $e^x \leq e^{\ln 5} = 5$ ,  $e^x - 5 \leq 0$ ,  $|e^x - 5| = 5 - e^x$ .

$\ln 5 \leq x \leq 3$  のとき,  $e^x \geq e^{\ln 5} = 5$ ,  $e^x - 5 \geq 0$ ,  $|e^x - 5| = e^x - 5$ . これより,

$$\int_0^3 |e^x - 5| dx = \int_0^{\ln 5} (5 - e^x) dx + \int_{\ln 5}^3 (e^x - 5) dx$$

例 定積分  $\int_0^3 |e^x - 5| dx$  を計算する.

$0 \leq x \leq 3$  である実数  $x$  について,  $e^x - 5 = 0$  とすると  $x = \ln 5$ .

$0 \leq x \leq \ln 5$  のとき,  $e^x \leq e^{\ln 5} = 5$ ,  $e^x - 5 \leq 0$ ,  $|e^x - 5| = 5 - e^x$ .

$\ln 5 \leq x \leq 3$  のとき,  $e^x \geq e^{\ln 5} = 5$ ,  $e^x - 5 \geq 0$ ,  $|e^x - 5| = e^x - 5$ . これより,

$$\int_0^3 |e^x - 5| dx = \int_0^{\ln 5} (5 - e^x) dx + \int_{\ln 5}^3 (e^x - 5) dx = [5x - e^x]_0^{\ln 5} + [e^x - 5x]_{\ln 5}^3$$

例 定積分  $\int_0^3 |e^x - 5| dx$  を計算する.

$0 \leq x \leq 3$  である実数  $x$  について,  $e^x - 5 = 0$  とすると  $x = \ln 5$ .

$0 \leq x \leq \ln 5$  のとき,  $e^x \leq e^{\ln 5} = 5$ ,  $e^x - 5 \leq 0$ ,  $|e^x - 5| = 5 - e^x$ .

$\ln 5 \leq x \leq 3$  のとき,  $e^x \geq e^{\ln 5} = 5$ ,  $e^x - 5 \geq 0$ ,  $|e^x - 5| = e^x - 5$ . これより,

$$\begin{aligned}\int_0^3 |e^x - 5| dx &= \int_0^{\ln 5} (5 - e^x) dx + \int_{\ln 5}^3 (e^x - 5) dx = [5x - e^x]_0^{\ln 5} + [e^x - 5x]_{\ln 5}^3 \\ &= 5 \ln 5 - e^{\ln 5} + e^0 + e^3 - 15 - e^{\ln 5} + 5 \ln 5 \\ &= 5 \ln 5 - 5 + 1 + e^3 - 15 - 5 + 5 \ln 5 \\ &= e^3 + 10 \ln 5 - 24 .\end{aligned}$$

終

**問6.9.5** 定積分  $\int_0^\pi \left| \cos x - \frac{1}{2} \right| dx$  を計算せよ.

$0 \leq x \leq \pi$  である実数  $x$  について,  $\cos x - \frac{1}{2} = 0$  とすると  $x =$  .

$0 \leq x \leq$  のとき,  $\cos x \geq \frac{1}{2}$ ,  $\cos x - \frac{1}{2} \geq 0$ ,  $\left| \cos x - \frac{1}{2} \right| =$  .

$\leq x \leq \pi$  のとき,  $\cos x < \frac{1}{2}$ ,  $\cos x - \frac{1}{2} < 0$ ,  $\left| \cos x - \frac{1}{2} \right| =$  .

$$\int_0^\pi \left| \cos x - \frac{1}{2} \right| dx = \int_0^{\quad} \left( \quad \right) dx + \int^{\pi} \left( \quad \right) dx$$

**問6.9.5** 定積分  $\int_0^\pi \left| \cos x - \frac{1}{2} \right| dx$  を計算せよ.

$0 \leq x \leq \pi$  である実数  $x$  について,  $\cos x - \frac{1}{2} = 0$  とすると  $x = \frac{\pi}{3}$  .

$0 \leq x \leq \frac{\pi}{3}$  のとき,  $\cos x \geq \frac{1}{2}$  ,  $\cos x - \frac{1}{2} \geq 0$  ,  $\left| \cos x - \frac{1}{2} \right| = \cos x - \frac{1}{2}$  .

$\frac{\pi}{3} \leq x \leq \pi$  のとき,  $\cos x \leq \frac{1}{2}$  ,  $\cos x - \frac{1}{2} \leq 0$  ,  $\left| \cos x - \frac{1}{2} \right| = \frac{1}{2} - \cos x$  .

$$\int_0^\pi \left| \cos x - \frac{1}{2} \right| dx = \int_0^{\frac{\pi}{3}} \left( \quad \right) dx + \int_{\frac{\pi}{3}}^\pi \left( \quad \right) dx$$

**問6.9.5** 定積分  $\int_0^{\pi} \left| \cos x - \frac{1}{2} \right| dx$  を計算せよ.

$0 \leq x \leq \pi$  である実数  $x$  について,  $\cos x - \frac{1}{2} = 0$  とすると  $x = \frac{\pi}{3}$ .

$0 \leq x \leq \frac{\pi}{3}$  のとき,  $\cos x \geq \frac{1}{2}$ ,  $\cos x - \frac{1}{2} \geq 0$ ,  $\left| \cos x - \frac{1}{2} \right| = \cos x - \frac{1}{2}$ .

$\frac{\pi}{3} \leq x \leq \pi$  のとき,  $\cos x \leq \frac{1}{2}$ ,  $\cos x - \frac{1}{2} \leq 0$ ,  $\left| \cos x - \frac{1}{2} \right| = \frac{1}{2} - \cos x$ .

$$\begin{aligned} \int_0^{\pi} \left| \cos x - \frac{1}{2} \right| dx &= \int_0^{\frac{\pi}{3}} \left( \cos x - \frac{1}{2} \right) dx + \int_{\frac{\pi}{3}}^{\pi} \left( \frac{1}{2} - \cos x \right) dx \\ &= \left[ \sin x - \frac{x}{2} \right]_0^{\frac{\pi}{3}} + \left[ \frac{x}{2} - \sin x \right]_{\frac{\pi}{3}}^{\pi} \\ &= \frac{\sqrt{3}}{2} - \frac{\pi}{6} + \frac{\pi}{2} - \frac{\pi}{6} + \frac{\sqrt{3}}{2} \\ &= \sqrt{3} + \frac{\pi}{6}. \end{aligned}$$

終